

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2021年6月18日

## 佐藤工業株式会社

### 見える化と三現主義で近代化に挑戦

昭和初期創業の歴史を誇る精密金属プレス加工メーカーの佐藤工業株式会社。独自技術で高いシェアを維持していたが、さらなる成長を目指し事業承継支援とプロ経営者の派遣を行うセレンディップ・ホールディングス株式会社のグループ会社になった。経営の近代化で企業改革に臨む代表取締役社長の植村達司氏に聞いた。

## Company Data

社名：佐藤工業株式会社

代表者：植村 達司

住所：あま市上萱津深見 48

電話：052-441-7771

URL：<http://www.sato-ind.co.jp/>

紹介金融機関：百五銀行



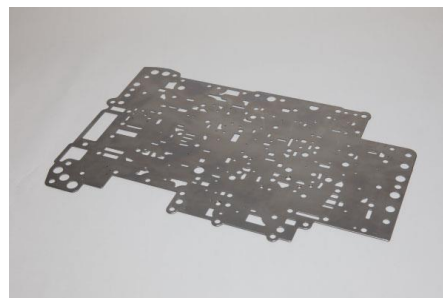
## 創業80年、老舗企業の決断

当社は1933年創業、80年以上の歴史を誇ります。

創業以来、創業家一族が経営を担うオーナー企業として強いリーダーシップを発揮し経営してきましたが、長期的な競争力を維持・強化し経営の近代化を図るため、2015年にセレンディップ・ホールディングス(名古屋市)のグループ会社になりました。そして、私とCFOの園田は同社より派遣され経営に携わることになりました。

## 経営の近代化の徹底

当社の強みは技術力にあり、創業当初からプレス加工を主力としていました。その後、お客さまからの要望で精密順送金型技術に挑戦し、現在の主力事業であるオートマチックトランスミッション(AT)に欠かせない部品を製造しています。当社の誇る精密順送金型技術は、世界でも数社しかできない極小サイズの高度な



精密プレス加工技術です。この加工技術は、高精度かつ安価な製造を実現し、他社の追随を難しくしています。

高い技術力をさらに活かすため、従業員100名程度の中小企業である当社で経営の近代化を目指し、私は2つのことを進めることにしました。

一つ目は「経営の見える化」です。各部品の利益率や生産量の変化を追っていくと、利益の大きい部品が減少し、利益の小さい部品が増大していることが浮かび上がりました。そこで利益構造を見える化し、改善すべきポイントを明確にしてからそれを確実に実行することで収益率向上に取り組みました。

二つ目は、「三現主義による改善活動」です。三現主義とは“現地”“現物”“現認”の3つの“現”を重視する考え方で、自動車業界で多く活用されています。私は従業員とのコミュニケーションを大切にし、時間のある限り現場で働いている従業員と納得いくまで話し合うことにしています。現場の従業員とコミュニケーションを重ねることで、問題が起きる前に、問題解決することができます。

### コロナ禍でも経営体制を強固に

昨年は、コロナ禍の影響もありさまざまな経営判断を求められる1年でした。まず、4月から6月にかけては主力である自動車業界の大幅減産がありました。私は「この時だからこそ、今までできなかったことをやろう」と思い切った生産の効率化を図りました。その後自動車業界の発注量は回復し、昨年9月には前年同月を上回り、1人あたりの生産効率を前年同月に比べ大幅に向上させることができました。その結果、売上高は当初の予想よりも減少しましたが、利益面では予想を上回ることができました。また、地元貢献としてあま市に昨年の車いす3台に続き、今年はポータブル発電機を2台寄付することができました。市長さんからも「来年の3月もよろしくお願いします」と言われてしまいました（笑）。

### 楽しむ、もがく

私の理念は2つあります。一つは、「変化を楽しむ」です。変化が当たり前の時代、生物も生存競争に勝ち残れるのは強者でなく、変化に対応できるかどうかです。もう一つは、「Struggle(もがく)」です。自分の経験ですが、どうやっても目標に届かない、そんな時にひたすらもがく。最後までなんとかしようという気持ちが大切だと思っています。

### 新たなチャレンジ

今自動車業界は、「100年に一度の変革期」といわれています。

電動化の流れは間違いなく我々にも影響がありますが、既存の部品がいきなりなくなるわけではないと考えています。

(EVに切り替わるまでの)時間を活かし、電動化でも求められる部品にチャレンジし、またコア事業のプレス技術高付加価値化も進めております。当社の技術を活かした積極的な提案をしていきたいと思っています。

今後、セレンディップ・ホールディングスのグループ会社も益々増えていく予定です。彼らと共に挑戦と成長を続け、佐藤工業の歴史をさらに次の世代につないでいきます。

